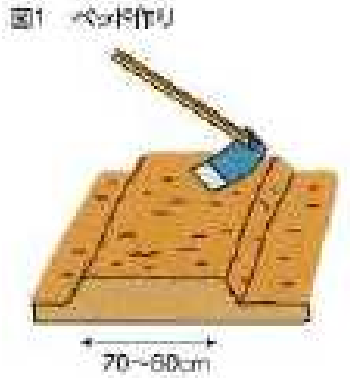
広報通信より掲載

あなたもチャレンジ！家庭菜園
園芸研究家●成松次郎

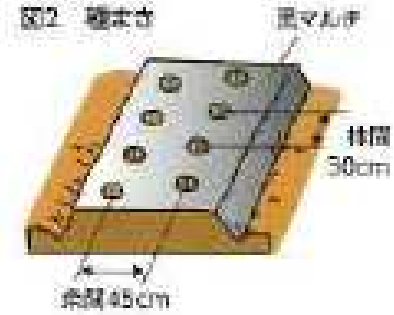
エダマメ　肥料は控えめに

大豆を未熟のうちに収穫するのがエダマメ。タンパク質、ビタミンA、Cを多く含み、ビールのおつまみとして夏の栄養補給に最適です。

[品種]
一般には早生品種を使い、「おつな姫」(サカタのタネ)、「サッポロミドリ」(雪印種苗)などがあります。風味の良い茶豆では「湯あがり娘」(カネコ種苗)など、黒豆も人気で「濃姫」(タキイ種苗)などがあります。



[畑の準備]
種まき2週間前に1平方m当たり苦土石灰100gを散布し、
よく耕しておきます。1週間前に化成肥料(NPK各成分で10%)
100gと堆肥1～2kgを施し、よく混ぜ込んでおきます。
その後、畝幅70～80cm、高さ5cm程度の栽培床(ベッド)を作り、
黒色のマルチを張ります(図1)。



[種まき]
地温が15度以上になった頃からが種まきの適期で、
一般地では遅霜の恐れがなくなる4月下旬～5月となり、
6月以降では害虫の被害を受けやすくなります。
条間45cm2条、株間30cm、1ヵ所に3～4粒まきます(図2)。
鳥害を防ぎ発芽を良くするために、不織布のベタ掛けが有効です。
本葉2枚の頃、生育の劣る株をはさみで根元から切り取り、
2本立ちにします。

気温が低い時期や鳥害を避けるためには育苗する方法もあります。
この場合、直径7．5～9cmのポットに3～4粒まき、初生葉がそろう頃に
間引いて2本残し、本葉2枚頃まで育苗します(図3)。

[病害虫の防除]
高温期にはカメムシ類が発生し、さやに付くと落下します。
開花期にスミチオン乳剤、トレボン乳剤などの登録農薬で防除します。

[収穫]
さやが膨らんで、指で押さえるとはじけるようになれば収穫期で、開花後から30～35日です。株ごと引き抜いて収穫します。収穫適期は3～5日と短いため、同じ品種なら時期をずらして2～3回に分けて種まきすると、長く収穫を楽しめます。